

元気いっぱい 友だちいっぱい
すすんで学ぼう 夢つくり



美小通信10

横浜市情報教育ネットワーク(YY ネット)上に本校のホームページがあります。

URL : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/utsukushigaoka/>

学校長 松瀬 歩

青葉区美しが丘2丁目29

電話(901)3408

初めて跳べました

副校長 小島 多加江

「うちのクラスに跳び箱を跳べない子がいるんです。副校長先生、みてもらえませんか？」

ある男性の先生が、私のところにやってきて言いました。跳べない児童はいずれも女子で、今の時代、男性の先生が女子の体を支える指導ができないことが悩みのようでした。

跳び箱の授業に行くと、いきいきと跳び箱を跳ぶクラスメートのそばで、少し困った表情の何人かの女子児童が立っていました。

実は跳び箱は、体重移動のコツさえつかめればほとんどの児童が跳ぶことができるのです。

まず、跳び箱にまたがって腕で自分の体重を支える動きから始めました。その後、私が支え役となり、何度か跳ばせます。一人の児童はわずか2回目で支えの手が軽くなり、3回目には跳ぶことができました。ところが驚いたことに、その児童は喜びません。まだ跳べないもう一人の友達を思っているのだと分かり、喜びは後にとっておくことにしました。

その後、他の児童も跳ぶことができ、あと一人となりました。

最後の一人となった児童のプレッシャーはいかばかりだったでしょう。しかし、彼女は諦めませんでした。目に涙を浮かべながらも、「やります。」と挑戦し続けました。

20回ほど挑戦したときでしょうか。ふっと、支えの手が軽くなりました。

今だ、と思った私は、次の挑戦の時、手を添えるふりをして支えることをやめました。

その児童が軽快に走り、手を跳び箱に付いた直後、体がふわりと上がり、バンツという心地よい音がマットから響いてきました。着地が決まった瞬間でした。

彼女が、さきほどの児童と一緒に喜んだことは、言うまでもありません。

後日、その二人の児童から手紙が届きました。その中の一人の手紙を紹介いたします。

とび箱を教えてくださいありがとうございました。おかげで、人生で初めてとび箱がとべました。

わたしは、何にでもこわがりて勇気が出せなく、ちよせんする事が出来ませんでした。ですが、副校長先生がコツを教えてください、ほじよをしてくれたおかげで上達していき、とぶ事が出来ました。本当にありがとうございました。これからもがんばります。

(本人に、掲載の了承を取っております。原文ママ)

子どもたちは、小さな成功経験を積み重ねながら成長していきます。今回の経験で、子どもたちは自信をもつこととチャレンジする勇気の大切さを自ら学びました。また、そこには、「なんとしてでも跳ばせて自信をもたせたい」という担任の思いがあったことも付け加えておきます。

美小では、担任だけでなく、すべての教職員、地域の方で子どもたちの成長を育てています。小さな成功経験が増え、どの子も自信をもって学校生活を送れるよう、すべての大人で子どもたちを支えていきます。

今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。